

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立養徳小学校)

1 平成26年度 重点評価項目

○ おもいや考え方を表現する力の育成

○ 規範意識の育成

○ 基本的生活習慣の確立

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成26年9月30日	評価日	平成26年10月24日
					分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学級評議員
1 確かな学力	おもいや考え方を表現する力	掲示板での言葉の広場や各教科での言語活動のさらなる充実	話す・聞く話型の統一。ジョイントプログラム等の結果	全市平均より2~3ポイント上回った。	⇒ 教職員の指導の工夫が評価となって表れ、85%の保護者・児童が「授業がわかる・楽しい」と回答があった。 毎朝の読書活動で本に親しみ、児童間で読み聞かせ活動もできた。	基礎基本の定着を図るために授業改善をさらに目指すと共に家庭学習の大切さを子どもたちと話合ったり、情報を発信したりしていく。 考え方や思いを表現できる子の育成に向け、日常の中でも聞く話力を育てていく。	⇒ 教職員の意識が高まっている。 ・保護者も授業参観を楽しんでいる。子どもたちも元気に学校に行っている。 ・図書室の来室回数が多い児童を表彰してやりたい。	・学校図書館の環境整備を地域の方やボランティアで行った。 ・読書の習慣化に向け、図書ボランティアの協力を得て賞状を作成していく。
	読書活動の充実	朝読書の充実 読み聞かせボランティア 読書100冊の定着	・朝読書や読み聞かせを通して読書の楽しさを味わっている。	「できている」児童・保護者の割合は85%(前年比+2ポイント)				
	家庭学習の習慣化	学校便り等による啓発	・時間を見つけて勉強をしている。	「そう思う」児童・保護者の割合は65%(前年比+11ポイント)				
2 豊かな心	人権教育の充実	「ともだちの日」の取組	「ともだちの日」の振り返り。 ・仲間を大切にする気持ちが育っている。	「そう思う」児童・保護者の割合は91%(前年比+2ポイント)	⇒ 「約束・きまり・ルール」の項目で、児童のきまりを守っているという意識と保護者・教職員の認識にズレがある。 ソーシャルスキルトレーニングを継続的に行ってきました結果、情操を育むことにつながった。	家庭・地域・学校が同じ目標で子どもたちに指導を続け規範意識の向上にさるなる努力を行う。 自尊感情を高め自己肯定感を持たせることにより、自他を大切にする子の育成に努める。	⇒ 先生方が来校者に挨拶をしている姿を子どもも見ている。挨拶をする子が増えた。 ・新聞でいじめ認知件数が京都市がワースト1位だった。問題行動の背景には人間関係に問題がある。	・地域・家庭と連携して意識の日常化を図る。 ・ゲストティーチャーを招いて、地域と連携をして子どもたちを見守り育んでいく。
	規範意識の育成	学校のきまりの確認・徹底	・学校や学級のきまりを守っている。	「できている」児童・保護者の割合は81%(前年比+9ポイント)				
	豊かな心の育成	ソーシャルスキルトレーニングの活用	・友達や家族が悲しくなるようなひどい言葉遣いをしないように気をつけている。	「そう思う」児童・保護者の割合は85%(前年比+7ポイント)				
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 生活点検表	・早寝・早起きをしている。 ・朝ごはんを毎朝食べている。	「そう思う」児童の割合は98%(前年比+5ポイント)	⇒ 朝食の大切さが定着してきたが、まだ数人朝ごはんを食べずに登校してきている児童がいる。 基本的生活習慣の定着が図ってきた。	引き続き朝食の大切さを学校便り等で家庭に呼びかけていく。 運動委員会によるドッジボール大会や大縄跳び大会などでも体力向上を目指している。	⇒ ・支部大文字駅伝で成績が上がった。 ・朝の声掛け・見守りでも挨拶をする子どもが増えた。	・「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて児童の意識化を図れるよう保健指導等の取組のさらなる充実を図る。
	体力向上	全校マラソンの取組 部活動の推奨	・児童の外遊び・部活動を推進すること。	「できている」教職員の割合は78%(前年比+20ポイント)				
4 独自の取組	安全教育・安全管理	セーフスクール指定校	・計画的な安全教育を行い、児童自ら考え判断して安全に行動できる力を育てる。(教職員)	「できている」教職員の割合は83%(前年比+20ポイント)	⇒ 文科省のセーフスクールの指定を受けて2年目、緊急地震速報装置を使っての避難訓練を年8回実施し、安全を意識する児童が増えた。 ホームページは学年からの発信を増やす方向で更新頻度を上げる。	教職員の実地安全研修も年3回行い、研修の成果を安全教育に反映させていく。 ホームページは学年からの発信を増やす方向で更新頻度を上げる。	⇒ ・自宅で地震を感じた時にテーブルの下に隠れて「ガスを消して」と、身の安全を守れる子になった。 ・ホームページでも安全研修をアップさせて、子どもを安心して送り出せる。 ・階段掲示とかの工夫がありがたい。	・引き渡し訓練も改善し、スマーズな引き渡しの流れができた。 ・朝の挨拶や登下校時の防犯や安全パトロールなど子どもを見守っていくことで地域に根差した活動が繋がりを強くすることになる。
	小中一貫教育の推進	3校合同研修会の実施	・小中一貫教育を推進する。(教職員)	「できている」教職員の割合は50%(前年比+38ポイント)				
	情報発信の充実	ホームページの更新	・学校ホームページが充実する。(教職員)	「できている」教職員の割合は75%(前年比+26ポイント)				